

# 「福島ひまわり里親プロジェクト」活動報告

## 九十九里ホーム 地域交流委員会

福島より購入したひまわりの種を育て、再び採取した種を福島へ返すことで、教育、雇用、観光等の発展・創出へとつなげていく福島ひまわり里親プロジェクトに、当法人が参加してから6年が経ちました。今年も、九十九里ホーム職員をはじめ、地元匝瑳市の各団体や学校など多くの方々のご協力により採取されたひまわりの種を福島へ届けてまいりました。

3月10日、九十九里ホーム 松丘園を出発した地域交流委員3名は、片道6時間の道のりを経て福島県福島市にあるNPO法人チームふくしまの事務所へ到着しました。事務所では職員の皆様が温かく迎えてくださり、ひまわりプロジェクトへの取り組みを報告したり福島の近況をお伺いしたりと和やかな雰囲気の中、里親様からお預かりしたひまわりの種248kgとガールスカウト第98団からのメッセージを無事に届けることができました。



ひまわりの種とともに出発前の記念撮影



福島へ到着した地域交流委員会のメンバー

その後参加した、ひまわりプロジェクトの懇親会では、全国各地から集まった里親の皆様との交流を通し多くの情報交換を行うことができました。中でも、今までの取り組みを一步前進させ、ひまわりの種を植え収穫すること以外にも、震災の風化を防ごうと新たなプロジェクトを企画し実行されている方々からのお話はとても刺激になりました。



ガールスカウトから福島へのメッセージ



チームふくしまからは感謝状を頂きました

ひまわりの種を届けるとともに、福島市内各所の視察も行いました。



**子どもたちがのびのびと遊べる屋内施設**

はじめに訪れたのは、原発事故による放射能汚染の影響により、外で十分に遊ぶことができなくなった子どもたちのために開設された無料の屋内施設「さんどパーク」です。おおぜいの子どもたちで賑わう施設内とは対照的に草の生い茂り変わり果てた姿となった屋外の公園が印象的でした。

南相馬市にある総合老人福祉施設福寿園も今回の視察の目的地のひとつでした。施設内を見学させていただいた後、職員の方との懇談の場では、震災後、物資の供給が止まったことにより利用者の食事が提供出来なくなり、横浜や大阪まで利用者を受け入れてもらうために走り回ったことや利用者のご家族からの要望や苦情への対応など苦勞の耐えなかった当時の様子をお伺いしました。



**総合老人福祉施設 福寿園の前にて**

また、一部の避難指示が解除されたことにより南相馬市へ戻ってくる住民が増加してはいるものの、若い世代は避難した土地での生活を続ける人が多く、住民のほとんどがお年寄りであるという現実があること。そのため福祉施設の需要は多いが職員の確保ができず受入体制の整った施設が不足しているといった現状を知ることができました。



**職員の方からは貴重なお話を伺うことができました**

視察を通して感じたことは、復興は着実に進んでいる一方、解決しなければならない課題も数多く残されているということでした。

九十九里ホームでは、これからも近隣地域の皆様のご協力を得ながら、福島の復興を願い支援の輪を広げていきたいと思っております。